

患者さまへ
「癒着性イレウスに対する減圧療法の治療長期化と
日常生活動作(ADL)との関連」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2019年1月1日から2023年12月31日に当院に病名「癒着性イレウス」、「術後癒着性イレウス」で入院した65歳以上の患者さまを対象とします。
2 研究目的・方法	<p>過去に腹部の手術をしたことがある方では、手術操作の影響でお腹の中の組織が癒着を起し腸の正常な運動が妨げられてしまうことがあり、これを「癒着性イレウス」といいます。癒着性イレウスでは、鼻から胃や腸にまで届く長い管を挿入して吸引を行い、消化管内の圧力を下げることで症状改善を図る治療法がほとんどの症例で有効ですが、この治療で改善しない場合は適切なタイミングで手術が必要となることがあります。一方で、高齢者では手術自体の負担により身体が弱り、もとの生活が難しくなるリスクが高いため、手術に踏み切るタイミングが遅くなる傾向があります。</p> <p>本研究では、高齢者(65歳以上)の癒着性イレウスに対して吸引による治療を行った群と手術を行った群の2群をすでに得られている診療録の情報から比較し、ADLとの関連について検討します。</p> <p>研究の期間:施設院長許可後(2024年8月予定)~2025年3月</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	年齢、性別、身長、体重、ADL、病歴、過去の手術歴、同じ病名でこれまでに入院した回数、経鼻胃管の挿入と抜去の日付や時間、入院中の食事摂取状況 等
5 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>研究責任者: 金城 宏武 湘南鎌倉総合病院・集中治療科</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 鎌口 清満 湘南鎌倉総合病院 救急総合診療科・集中治療科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717</p>